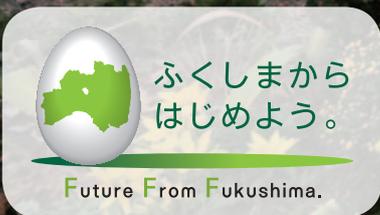


林業福島

No. **629**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



1

2017

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 冬に備えて



福島の新しい未来を切り拓く

福島県知事
内堀 雅 雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく六年を迎えようとしております。今もなお多くの方々
避難生活を続けているほか、被災者の生活再建や廃炉・汚染水対策、風評と
風化の二つの逆風など課題が山積しており、福島復興はまだ途上にあり
ます。

一方で、環境・医療分野を始めとした新たな拠点施設の整備進展、県内観
光地のにぎわい回復や文化・スポーツ面における若者の活躍など、明るい光
が強まりを見せてまいりました。

県民の皆さんがより一層復興を実感できるよう、復興計画に基づく重点プ
ロジェクトを着実に実行に移し、スピード感を持って取り組んでまいります。
特に、避難地域の復興再生は最優先課題であります。インフラ復旧・整備
はもちろん、医療提供体制の確保や学校再開支援等の広域的な課題への対
応、イノベーション・コースト構想の具体化など、一人でも多くの方がふる
さとに安心して住み、暮らし、働ける環境づくりを進めてまいります。

また、復興を更に前へ進めていくためには、経済や産業の活性化が極めて
重要です。農林水産業、商工業、観光業など既存産業の再生はもとより、再
生可能エネルギーや医療関連産業を始め、ロボット、航空宇宙関連産業など、
新たな時代をリードする成長産業の育成・集積を図ってまいります。

さらに、復興と併せて取り組まなければならないのが地方創生でありま
す。本県人口の推移は厳しい状況が続いており、ふくしま創生総合戦略に基
づき、雇用の創出や定住・二地域居住の推進、地場産業や観光の振興など、
福島ならではの地方創生、人口減少対策に重点的に取り組んでまいります。

このほか、避難者支援、風評・風化対策、県土の環境回復、県民の健康増
進、産業の振興、社会生活基盤の整備推進など、様々な課題に一つ一つ挑戦
を続け、福島県全体の復興・創生に力を尽くしてまいりたいと考えておりま
す。

震災・原子力災害からの復興と地方創生を二つの大きな柱として、福島に
心を寄せてくださる国内外の全ての方々と力を携え、新しい未来を拓き、世
界に誇れる福島の実現を目指して、全力で取り組んでまいりますので、今後
とも一層の御支援、御協力をお願い申し上げます、新年の御挨拶いたします。

《も く じ》

とびら	森林・林業等の復興支援に関する連携協力
福島の新しい未来を切り拓く	協定を締結…………… 6
福島県知事 内堀 雅 雄………… 1	山の肥やしは…………… 7
森林林業の復興・創生へ向けた取組み	普及指導員通信…………… 8
農林水産部次長 松本 秀樹………… 2	◆ 森林管理署メモ…………… 9
新春特集	公社だより…………… 10
第69回全国植樹祭への思いを語る… 3～4	「自然に親しむ」…………… 11
全国植樹祭コーナー…………… 5	木材市況・ふくしま東西南北…………… 12
	はなしのひろば…………… 13

森林林業の復興・創生へ向けた取組み

農林水産部次長(森林林業担当) 松本 秀樹

東日本大震災から満六年目になろうとしております。平成二八年度からの新たなステージとしてスタートした「復興・創生期間」の二年目となり、本県の復旧・復興は、県民の皆様のご尽力により着実に進んでおり、森林・林業の復興・創生に向けて成果を結んで来ております。

県民生活の安全・安心の確保、森林・林業の再生に向けた「福島県森林・林業の再生に向けた総合的な取組」が平成二八年三月に復興庁、農林水産省、環境省が連携して取りまとめられ、「里山再生モデル事業」において、九月に川俣町、広野町、川内村、飯舘村の四町村、十二月には相馬市、二本松市、伊達市、富岡町、浪江町、飯舘村の六市町村においてモデル地区が選定されたところであり、引き続き、住民や林業関係者の意向を踏まえ事業の具現化に取り組み、その対策で得られた成果が広く県内で活用できるよう国への働

きかけを進めてまいります。

また、昨年十二月には、里山再生モデル事業が川俣町山木屋地区において、国の事業が着手されたところであり、国の事業が着手されたところ

であり、森林整備においては、依然として震災以前の状況まで回復して



造成が進む海岸防災林

放射性物質の拡散抑制対策を一体的に実施する「ふくしま森林再生事業」に積極的に取り組んでおり、市町村や林業関係団体との連携のもと着実に森林整備の拡大が図られてきております。

大震災の津波で一五五センチが流出した海岸防災林においては、林帯幅二〇〇センチ、面積約六八六センチを造成している八地区すべてにおいて着手し、いわき市新舞子海岸は完了するなど平成三二年度の完成を目指して盛土造成、植栽に取り組んでおり、その姿が見えてきております。

県民生活と密接に関わっている野生きのこや山菜は、依然、県内の多くの市町村において、出荷制限等がされており、地域の方々から出荷制限解除の要望されており、出荷制限の解除に向けて、解除手続きや簡易な測定機器の活用などを国に要望するとともに、野生きのこでは、十市

町村十五品目、山菜では十五市町村七品目で解除に向けた検査等に取組み、野生きのこでは、二地域において解除に向けた調整を開始しております。また、栽培わらびは、喜多方市、福島市において出荷制限の解除がなされたところであり、

さらに、平成三〇年春季に開催の第六九回全国植樹祭に向けて、大会テーマ、シンボルマーク、天皇皇后両陛下のお手植え、お手播き樹種を決定するとともに、式典会場造成などの準備を進めております。また、県民参加の開催とするため、大会で植栽する苗木を小学校や企業・家庭で育てていただく苗木のスクールステイ・ホームステイ、各地の植樹活動をつなぐ「森林とのきずなづくり植樹リレー」等の取組を進め、大会では本県が緑豊かなふるさととの再生を進めていく姿や復興に向かつて強く歩み続ける福島県民の姿、復興支援に対する感謝の気持ちを広く発信することとしております。

引き続き、県民の方々や森林・林業の関係者の皆様のご支援、ご協力を賜りながら、森林・林業の復興・創生に向けた取組を進めてまいりたいと思っております。

新春特集

第69回全国植樹祭への思いを語る

本県では、県民一人一人が主役となってふくしまの復興と未来を見据えた森林づくりが進められています。新春に当たり、森林づくり活動に頑張っている皆さんから、第69回全国植樹祭の思いを語っていただきました。（順不同）

「第六九回全国植樹祭ふくしま2018」 開催に向けて

うつくしま21森林づくりネットワーク
会長 山本光子

甚大な被害をもたらした東日本大震災から五年以上が過ぎ、福島県内の森林・里山活動も震災以前のようなにぎわいを取り戻そうと

しています。震災直後は、福島第一原子力発電所の事故により、どの団体も活動を自粛せざるを得ない状況に陥り、我々「県南、木もれび倶楽部」もまた、十年近く続けてきた「木もれびのさす里山づくり活動」の中止を余儀なくされました。里山活動が再開されたのは二〇一三年の冬からで、これには多数のボランティアスタッフのご協力が欠かせませんでした。活動再開から数えて三度目の冬を迎えた現在では、幼児から若者、シニアの方々が集う里山として、地域の憩いの場となっています。

里山活動再開に際し、「あきらめずに活動を継続していれば、必ず道は拓ける」ということを教えられ、そしてまた我々は、活動にご協力いた



里山活動を行う園児達

いている多くのボランティアスタッフ、支援者たちの温かいお心遣いに支えられているということを再認識させられました。

この「第六九回全国植樹祭ふくしま2018」においても、我々一人ひとりが無理せずできることを少しずつ行い、東日本大震災からの本当の意味での復興の証として、参加した全ての方々に笑顔へと導いていきたいと、森林を愛するひとりの福島県民として強く思います。

第六九回全国植樹祭に向けて

福島県林研グループ連絡協議会
会長 豊田新一

昭和四五年五月十九日。当時の新聞は、「初夏の日差しが降りそそぐ新緑の高原―表磐梯天鏡閣につどう―万人余の参加者は一瞬、水を打ったように静まりかえった。」と報じています。

本県においては初めての、第二一回全国植樹祭の開幕の瞬間です。その時のテーマは、「後継者の森」を造成しようでした。式の次第をみると、祝辞、緑化功労者や県林業功労者の方々の表彰など、様々な植樹祭の行事がならんでいます。その中で、両陛下お植樹の次に、「林業後継者の決意表明」があり、全国の林業後継者の代表として、田地区の緑川平寿氏が決意を述べました。これは、当時、テーマに沿った内容の企画を考えた結果、全国植樹祭として初めて行われたもので、のちの全国林業後継者大会の端緒となったと聞いています。

さて、本県二回目となる平成三〇年開催の第六九回全国植樹祭ですが、「育てよ



小学校での活動風景

う 希望の森を 命の森を」のテーマのもと、すでに当日行われる三万本の植樹のうち半分の苗木を育成する県内のボランティアの募集に、一万六、〇〇〇人の応募があるなど、着々と準備が進められています。今後は、私たち林業者を含めた関係者一人ひとりが、大会を成功へ導くために、今から周囲の人々に語り掛けるなど、一人でも多くの方々に全国植樹祭への関心を持ってもらえるよう、これまで以上に努力してまいりたいと思っております。

「もりの案内人として」

NPO法人福島県もりの案内人の会

代表理事 薄井 浩

私は、平成十一年二月に福島県もりの案内人としての認定を受けました。私が二期生に当たりますので、この福島県もりの案内人が発足して既に十九年が過ぎようとしています。

この間、福島県もりの案内人の会が組織され、県内には、七地区で支部が発足するとともにこの会がNPO法人化されて、会員数も三〇〇人を擁するまでになりました。

私たちは、県民の皆さんと共に



森林環境学習の活動風景

りの未来のあり方を考え、もりと共生する自然環境づくりをめざしております。もりの案内人が発足してから間もなく二〇年になろうとしているとき、この歴史と伝統は、当会員とともに、これからも守っていかなければならないと考えます。

私たちは、自然観察や森林づくりなどのふれあいを通じて福島県民のみなさんと一緒に森林の役割や大切さを学びながら伝えていく森林環境学習のインタープリター・ボランティアによる森林活動の指導者としての自覚を再認識し、小中学校からの依頼派遣による森林環境学習をはじめ、市町村学習センター等の生涯学習、企業等から依頼による自然体験活動を通じて、森林との未来を考え、森林と共生する自然環境づくりをめざしてまいります。

本年は、子供たちを中心とした植樹を含めた森林整備活動の範囲を拡大して、併せて、来る第六九回全国植樹祭大会への支援の輪を広げる活動を進めたいと思っています。

美しい里山をいつまでも

(第六九回全国植樹祭に寄せて)

田村市立緑小学校みどりの少年団

田村市北部の山間部に位置する本校は、統合して「緑小学校」となりましたが、それ以前の「移小学校」「中山小学校」時代から「緑の少年団」としていろいろな活動を行ってきました。例えば、学校林があつて植樹や下草刈りをしたり、きのこ栽培をして芋煮会を行い収穫の喜びを味わったりなどの活動です。



活動風景

ところが、先の東日本大震災を機に状況は一変し、校外での児童の活動は制限され、遊ぶこと・運動することはもちろん、野外での栽培活動も一時はできなくなりました。幸いにも少しずつ状況は好転し、ここ数年は花壇での花の栽培や、地域の方々にお世話になりながらの畑でのサツマイモの栽培と収穫もできるようになってきました。さらに平成二十七年三月には、寄贈された桜の苗木を「絆の桜」と名づけて全校生で学校周辺の土手に植樹し、未来の「観桜会」を目指して草むしりや追肥などの世話をしています。福島県の復興と重なるように児童の活動が徐々に増えてきているのは大変嬉しいことです。本県では平成三〇年に全国植樹祭が開かれますが、地域の方々と学校が協力して緑豊かな環境、里山を守っていくことが植樹祭を成功させることにつながればと思います。



第69回 全国植樹祭

育てよう 希望の森をいのちの森を

多くの方々のご支援のもと、
大会開催に向け準備を進めています

“苗木のホームステイ” スタート！

第69回全国植樹祭では、県内外からの招待者 6,000 人が記念植樹を行います。その苗木を県内の企業やご家庭で育てていただく苗木のホームステイが11月から始まりました。苗木のホームステイでは県内163箇所、クロマツ・アカマツの苗木11,800本を育てていただいております。県内の小学校で取り組んでいる「苗木のスクールステイ」と合わせると、約17,000本の苗木を県民の皆様へ育てていただいております。

お配りした苗木は、「苗木のホームステイのしおり」に沿って育てていただきますが、今回は冬場における、苗木の管理方法をご紹介します。

冬場の管理について

マツは雪をかぶっても、雪の中は温度や湿度が適度に保たれるため、冬を越すことができます。

雪が積もらない地域では、土が凍ることで苗木が枯れてしまう場合があります。

玄関などの室内や、屋根の下などで育てるようにしてください。

水やりは、苗木の様子を見ながら行ってください。（葉が白っぽくなっていたら、水不足のサインです。）

★ワンポイント

マツは急激な温度変化に弱いです。

暖房のある室内にはいれないでください。



～お願い～

育てている様子を教えてください！

皆さんが育てている様子を、全国に広く発信します。

ホームページやチラシなどに掲載しても良い写真を添付して、以下のメールアドレスまでお送りください。

- ◆送り先メールアドレス
syokujusai@pref.fukushima.lg.jp
- ◆件名：苗木のホームステイ育成記録
- ◆本文：①氏名または企業・団体名
②簡単な感想

第69回全国植樹祭の大会ロゴマークをご使用いただけます！

第69回全国植樹祭ロゴマークは大会の趣旨にご賛同いただける皆様にお使いいただけます！
使用する場合には、申込みが必要です。
詳しくは第69回全国植樹祭のホームページをご覧ください！



大会ロゴマーク横 ver. と縦 ver.



お問い合わせ

第69回全国植樹祭
福島県実行委員会事務局
(福島県農林水産部全国植樹祭推進室)

〒960-8670

福島県福島市杉妻町2番16号

電話 024-521-8628

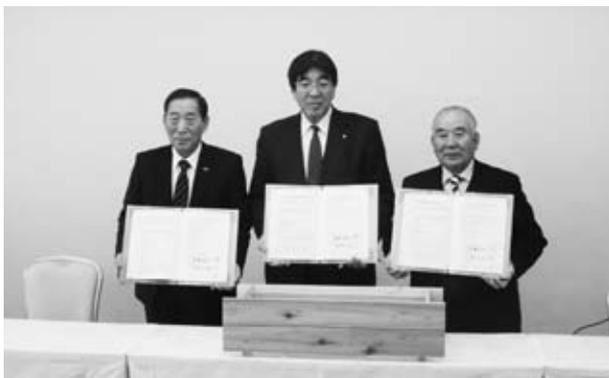
FAX 024-521-8658

福島県全国植樹祭



森林・林業等の復興支援に関する連携協力協定を締結

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会



協定を締結

（左から県森連 秋元会長、農林中金 後藤常務、当協会 齋藤会長）

12月15日、福島市「杉妻会館」において、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会（以下「当協会」という。）と福島県森林組合連合会（以下「県森連」という。）及び農林中央金庫（以下「農林中金」という。）は、「福島県における森林・林業等の復興支援に関する連携協力協定」を締結しました。

これは、東日本大震災及び原発事故で未だ大きな影響を受けている本県森林・林業等の復興の加速化に向け、緑化活動の推進や県産材の利活用、資金面など3団体が持つ強みを活かし、全国植樹祭をはじめ森林・林業の復興や緑化の推進などに連携協力して取り組むものです。農林中金は、独自に創設した復興支援プログラムに基づき本県の幼稚園・保育園等に積み木を寄贈するなど、こ

れまでも農林水産業の復興を全力かつ多面的に支援されてきましたが、関係団体と協定を締結し連携協力して復興を支援することは全国初の取組であり、意気込みが感じられます。

今回締結した協定では、次に掲げる復興支援プロジェクトを相互に連携して取り組むこととしています。

- ① 花と緑いっぱいのふるさとを再生するためのプロジェクト
- ② 住民参画による緑化活動を進めるためのプロジェクト
- ③ ふるさとの祭り復活プロジェクト
- ④ 里山資源活用の技術開発及び普及・販路開拓に向けたプロジェクト
- ⑤ その他必要に応じて認める追加プロジェクト

今後3団体は、必要に応じ実行委員会を設置の上、復興支援プロジェクトに基づく各種事業を積極的に展開し、県民が安心して豊かに暮らせるふるさとの環境整備の加速化に向け全力で取り組んでまいります。

協定締結後、農林中金及び県森連は、復興支援プロジェクトの第一弾として、第69回全国植樹祭の開催を後押しするため、全国植樹祭会場で使用する木製プランターカバー1,000基（2,500千円相当）を全国植樹祭福島県実行委員会（会長は福島県知事）に寄贈しました。

このプランターカバーは、震災で甚大な被害を受けたふくしま中央森林組合の都路加工場で製作したもので、全国植樹祭のメイン会場で使用するほか、開催前はサテライト会場となる「フォレストパークあだたら」に設置するとともに、開催後も県内の復興・公共施設に移設し被災者の生活環境の向上に向け有効活用される予定です。

寄贈を受けた内堀県知事からは、「県産材を使用した立派で素晴らしい物を寄贈いただき、ありがとうございます。全国植樹祭に向け県民あげて盛り上げていきます。」と感謝の言葉をいただきました。



寄贈された木製プランターカバー



木製プランターカバーを寄贈

（左から当協会 齋藤会長、内堀県知事、農林中金 後藤常務、県森連 秋元会長）

山の肥やしは

いわき市森林組合 代表理事組合長

田子英司



バックホウ地拵え作業

林業・木材産業が低迷期に入り久しく、特に川上の森林所有者の立場としては、「悲惨な状況」と言っても、過言ではないと考えております。

この現状には、当然のことながら、誰も満足をしているはずもなく、かと言っても、何も行動を起こさなければ、何も変わらず、延々と今の状況が続いてしまう可能性さえあります。ただ、

行動を起こしたら、必ずしも好転するとは限りませんが、可能性がゼロでない限り、起こした行動を全力でプラスの方向へ導きたいの思いから、当組合において、二つの課題に挑戦中でありましてので、紹介をさせていただきます。

一つ目は、「再造林促進モデル事業」です。古代メソポタミア文明は、森林を伐採し利用することで繁栄し、伐採し過ぎたことにより農地の塩害を誘発し

て滅亡したと言われています。ところが現在は、材価や他の要素により、木材を伐りたくても伐れなくて、結果的にいわきの林業が衰退している様に感じております。

財産保持的な所有形態の中においては、計画的な林業経営と言うより、まとまったお金が必要になった時のために、との思いで育林作業を継続しており、「今」の時に、再造林の費用を考慮すると皆伐できない、又は「再造林をしない」との覚悟で伐採し、伐後放置の山林も散見される状況に、森林組合として何かできないか、との思いから、その対応策として取り組んでいます。

山中に枝葉を散らかすから地拵えの作業が必要になるので、全木の状態で引き寄せ、ハーベスタとグラップルにより採材と地拵えを同時に行うことで、費用を圧縮し、所有者負担を極力軽減して再造林が実現できないかを模索しています。

二つ目は、取得に向けて勉強中の、「森林認証」です。戦後植林された人工林の、約半分の面積が十齢級を超えた当地において、今までは、植えて育てることが主眼でありましたが、これからは、伐って利用し、また植える、そんな時代にスライドしてきたと考えま

す。しかし現実には、夏季に伐採・搬出された一般材が、その経費にも満たない材価で流通している状況です。これでは、持続的な森林管理や木材生産は、不可能であります。

そこで、将来のいわきの森林・林業のあり方を長期的に考慮し、また、合法伐採木材利用促進法等の関連から、木材生産者からエンドユーザーまでの連携を構築するため、そして、森林所有者への還元につなげるためにも、必要な森林認証との思いで挑戦中であります。

一般に、「過去は変えられないが、未来は変えられる」と言われます。しかし、現状に満足できない中でも、黙っていて、何もしなければ、変わるものとは思えません。本気で未来を変えようとするならば、今を変えざるを得ない努力が、当然必要であると考えます。

四〇年ほど前に、「山の肥やしに、何が一番良いか」と問われ、一応、林学を学んだことになっている小生としては、僅かなプライドをかけて返答したが、全て不正解という出来事を最近よく思い出します。恐らく、今になってその答えの重大さ、奥深さを身に染みて実感していることに、他ならないからだと思いま

CLTを用いた大型木造建築と普及について

福島県県中農林事務所

主査 山田 憲 司

ここ数年、CLT（直交集成板）を用いた建築が注目されており、マスコミでも取り上げられる機会が増えてきました。国や県においても、CLTが木材利用拡大につながるものとして普及を進めているところです。

県中農林事務所の管内でも、木材加工業者が大型のパネル状の木質部材の加工機械を導入するなど、CLTの活用を進める下地が整えられています。

このような中、郡山市において、森林整備加速化・林業再生基金事業「CLT等新製品・新技術の実証・展示加速化対策」を活用し、既存の木造技術とCLTを組み合わせた工法の確立に向け、CLTと木造ラーメンの複合工法による教育施設（専門学校：郡山ヘアメイクカレッジ）の建築実証の取組が進められています。この事業では、CLT等木造建築への理解を深め、工法の普及を図ることを目的として、構造や建築過程について公開を行うこととされており、現在までに2回開催されています。

地方公共団体向けに行われた見学会では、県・市町村の林務担当者だけでなく、建築担当者の参加があり、また一般向けに行われた見学会では、多くの設計事務所や建設会社等が参加し関心の高さがうかがえました。

参加者の多くはCLTの建築を目にするのは初めてであり、CLTのパネルの大きさや、現しにした内装の状況、各部材の接合方法、現場での施工期間が非常に短いことなどに関心を寄せていました。

本来であれば、さらに公開を重ね、多くの人に建築状況を見てもらいたいところですが、決められた工期の中で工事を進めている関係もあることから、今後は完成見学会や、ヘアメイクカレッジ開校後の見学会で公開していく予定としています。



CLT パネル

郡山ヘアメイクカレッジの建物概要

建設場所	郡山市笹川三丁目53-1
延床面積	1,448㎡（1階 935㎡、2階 513㎡）
CLT使用量	216㎡



CLT パネル（屋根材）使用状況



現場見学会状況

事務所としては、今回の事業を契機に木造建築をさらに普及啓発し、地域材利用の拡大を図りたいと考えているところです。

そのためにも、普段接している森林・林業関係者だけではなく、幅広い分野の方々に、CLTを始め県内で開発された様々な木造工法や、木造のメリットを伝えることで、これから建築を行う人たちが、木造建築を選びやすくなるよう、様々な機会を捉えて働きかけていきたいと考えています。

森林管理署メロ

労働力確保対策に向けた取り組み

福島県の森林再生事業にあたり、森林整備を行うための労働力の確保が大きな課題となっている中、一昨年から県南農林事務所の声かけで、自治体、森林組合、事業者、森林管理署などの出席のもと、労働力確保に向けた意見交換会を行っています。

この会議の中で事業者からは、新規就業者の確保に向けた取り組みが重要との意見が出され、これを受けて今年度、県南農林事務所において林業分野への新規就業者の確保に向け、地元の高校生と高校教諭を対象に、林業に関する知識の習得や現状について知ってもらい、若年層の林業分野への就業や教育関係者への林業への理解を深めてもらおうと、林業の現場で見学会を行ってきました。

このような中、十二月十六日に福島県立修明高校鮫川校の生徒・教師合わせて三六名を対象に、現在国有



福島森林管理署長
坂井 康 宏



意見交換

林で行われている生産事業（間伐）の現場において見学会を行いましたので紹介させていただきます。

現地見学会に先立って、森林管理署から森林の有する多面的機能や東白川郡の森林の状況、また森林整備の



集材・玉切り

重要性について説明した後、実際に作業を行っている奥久慈林業協同組合の現場でカラフルな防護衣を身にまとったオペレーターが林業機械を手際よく操り、道付けから伐倒・集材・造材まで行う一連の工程を見学してもらいました。生徒からは、プロセッサやフォワーダなど初めて見る機械ばかりで、迫力のある伐倒作業や枝払い・玉切りなどを行う機械の動きに驚いている様子でした。また作業終了後には、現場で作業に当たっている方との意見交換を行った後、地元の製材工場で集成材などの製造工程を見学し、予定したスケジュールを終了しました。



伐倒説明

身近に森林があり、そして林業の盛んな東白川郡ではありますが、なかなか伐採現場を見る機会が少ない中、高性能林業機械による作業や間伐後の明るくなった林内の様子を見て林業に対するイメージが変わったものと思います。

労働力の不足そして高齢化が進んでいる林業分野ですが、今回の現場見学会を機に少しでも森林に目を向けてもらい、若い人たちが森林整備の重要性について理解を深め、そして林業に関心を持ってもらうことで、一人でも多くの方が林業分野に就いてもらえればと願うところであります。

団体のページ

公社だより

「ふくしま森林再生事業」への取組み

「ふくしま森林再生事業」（以下、「森林再生事業」という。）は、原発事故によって影響を受けた森林において、森林整備と放射性物質の動態に対応した対策を一体的に推進し、森林を再生する県補助事業です。

公社では、平成二五年度から森林再生事業に取り組んでおり、これまで自らが発注する事業主体としては、四市町村（古殿町、平田村、会津美里町、いわき市）において三二九畝の間伐等の森林整備を実施しています。

また、市町村（福島市、伊達市、郡山市、天栄村、三島町）が事業主体として森林再生事業を行う際には、区域の一部として公社造林地を提供し、併せて技術的な協力を行うなどしており、平成二八年度までに、一四四畝の造林地において市町村と連携した森林再生を進めています。

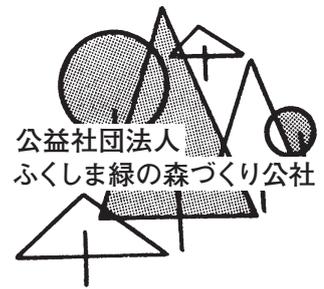


表 公社における森林再生事業の取組 単位：ha

区分	市町村名	25	26	27	28	計
公社直営	古殿町	18.33				18.33
	平田村	3.89				3.89
	会津美里町		68.04	62.64	79.23	209.91
	いわき市	25.56	33.56	25.21	12.50	96.83
小計	47.78	101.60	87.85	91.73	328.96	
市町村管	福島市		1.99	7.64	7.02	16.65
	伊達市				30.12	30.12
	郡山市			38.87	48.97	87.84
	天栄村				1.79	1.79
	三島町				7.60	7.60
小計		1.99	46.51	95.50	144.00	
小計		47.78	103.59	134.36	187.23	472.96

森林再生事業は、本県の森林再生にとって重要な放射性物質対策を含むことから、事業対象市町村内で面的なまとまりのある森林面積を確保して行うことが必要であると考えています。このため、境界が明確で比較的大面積の契約地を有する公社は、積極的に取り組むこととします。



拡散防止対策



間伐材の搬出

さらに、事業を実施することにより、地元における雇用創出や復興資材の供給などにも結びついており、分収林であり森林所有者にとってもメリットがあることから、今後とも対象地の確保に努めていく考えです。

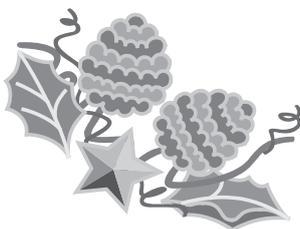
☆ほろっとひと息☆

間伐材の有効利用展示

ふくしま緑の森づくり公社では、十二月のクリスマスマズシーズンに合わせ、福島県自治会館一階エントランスホールにおいて、間伐材の有効利用推進の一環としてスギ間伐材のツリーを展示するとともに、公社の事業内容等を紹介しました。

展示期間

平成二八年十二月七日～二三日



「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 — 22 —

永泉寺のコウヨウザン

樹木医 鈴木俊行



「永泉寺のコウヨウザン」は須賀川市長沼寺前二四番地の永泉寺境内に生育している。永泉寺は、国道一一八号から県道二九号（長沼喜久田線）へ入り、県立長沼高等学校の手前から東へ約一キロ、旧長沼町役

場から北へ約一キロの場所にある。生育場所は、参道階段を昇りきった境内の本堂の前で、本堂に向かって左に本樹、右側に「永泉寺のシダレザクラ」（県緑の文化財）と呼ばれ親しまれているシダレザクラの巨木が生育している。永泉寺は長沼町内を見下ろす高台に位置することもあり、本樹を町内のどこからでも見る事ができる。

本樹にまつわる伝説等は、永泉寺は応仁二年（一四六八年）の創立といわれているが、永正十四年（一五二七年）に、三代目住職の心操全忠大和尚が全国を行脚して入山する際、四国から持ち帰った苗を植えたものと言われている。さらに、天狗が住んでいるとの伝説も残る霊木で、推定樹齢は四〇〇年とも五〇〇年ともいわれる巨樹である。

本樹の樹種は、スギ科コウヨウザン属のコウヨウザン（*Cunninghamia lanceolata*）で、中国南部・台湾・インドネシアが原産地の常緑針葉樹で、大きいものでは樹高三〇メートル以上、直径一メートル以上に生長する。和名のコウヨウザンは、スギに似た幅の広い葉を持つため「広葉杉」の名前がつけられたもので、中国名は「杉木」又は「沙木」である。また、天に向ってまっすぐに伸びる樹形とオリエンタルな雰囲気が好まれ、社寺に多く植えられた。材は、成長が早い分、材の密度が低く折れやすいため、日本では材木として使われることは少ない。しかし、シロアリの害に強いため、原産地の中国や台湾では最も重要な材木として利用されている。日本には江戸時代後期に渡来したといわれていることから、本樹のいわれている樹齢はやや疑問であるが、亜熱帯性の植物で関東より北にある唯一の巨樹として貴重で、昭和三六年三月二二日

県の天然記念物に指定されている。

形状寸法は、樹高二九・〇〇メートル、幹周五・五〇メートル、根元周七・八〇メートルで、落雷による傷



が主幹頂部から根元まで残るが、樹勢は良好でまっすぐに天にむかって伸びている。枝張りは、東八・五〇メートル、西七・〇〇メートル、南九・〇〇メートル、北八・六〇メートルと均整のとれた三角錐の樹形を呈している。樹冠の枝のほとんどが垂れ下がり、枝の先端に多くの実を付け、ちようど傘を差したようなエキゾチックな姿に圧倒される。また本樹は、我が国に植栽されたコウヨウザンの中でも屈指の巨樹で、永泉寺境内をオリエンタルな空間に創り出している。

永泉寺は、東日本大震災で、藤沼湖の堰堤が決壊し、参道入り口の簀ノ子川を鉄砲水が襲い、寺に通じる橋が流されるなど被害は大きかったが、本樹の生育に影響はなく、悠悠とどっしりと立っている姿は威厳を感じ見事である。日本でも有数のコウヨウザンの巨樹の異国情緒あふれる空間の中で、パワーをいただきに訪れてはいかがだろうか。

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(10月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)		10 (9~10)	0	9 (8~10)	0
		10~14				11 (11~11)	0	(0~0)		11 (11~11)	0	11 (11~11)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	13 (13~13)	0	10 (10~10)	0	12 (12~12)	0	12 (10~13)	0
					ヒノキ	13 (12~13)	0	(0~0)		14 (13~15)	△1	13 (12~15)	△1
		20~28	6.00	並	スギ	16 (14~17)	0	10 (10~10)	0	14 (13~15)	△2	14 (10~17)	△1
					ヒノキ	28 (24~33)	0	(0~0)		19 (15~23)	△2	24 (15~33)	0
			3.65	並	スギ	11 (10~12)	1	10 (10~10)	0	12 (11~12)	1	11 (10~12)	1
						4.00	並	11 (10~12)	1	10 (10~10)	0	10 (9~11)	△1
	4.00	並				アカマツ	10 (8~13)	1	(0~0)		8 (7~9)	△1	9 (7~13)
	1.80	並	アカマツ	7 (5~10)	1	(0~0)		6 (5~7)	0	7 (5~10)	1		
				外	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		28 (28~28)
	米マツ	32 (32~32)	0					31 (31~31)	0	29 (28~29)	0	30 (28~32)	0
材	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		27 (26~28)	0	27 (26~28)	0	
				アカマツ	(0~0)		(0~0)		33 (26~40)	0	33 (26~40)	0	
		4.00	並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		25 (24~26)	0	25 (24~26)	0	
				マツ	6 (6~6)	0	(0~0)		5 (5~5)	0	6 (5~6)	0	
パルプ用材		並	広葉樹	9 (9~9)	0	(0~0)		7 (7~7)	0	8 (7~9)	0		

九月の原木市場への入荷状況は、前月比一割増(前年比一五割増)の一八、八九八立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比一割減(前年比二三割増)の一八、八五五立方メートルとなっている。
 十月の価格については保合いとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	7 (6~8)	0	7 (6~9)	0
	13~14			カラマツ	10 (9~12)	0	8 (7~8)	0
	16以上			カラマツ	13 (12~14)	0	10 (9~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

南会津郡檜枝岐村には、この地ならではの珍味として「山椒魚」があります。一度味わいたいと思つていたら、今年も田島祇園祭の檜枝岐村の商店で燻製が販売されていたのを見かけたため、購入してみました。二匹分で六五〇円とやや高額と思われ値段でしたがお祭りとのこともあり購入しました。原材料の表示には「ハコネサンショウウオ(福島県檜枝岐村産)」の表示があり、体長一五センチ程の小型の両生類です。きれいな水質を繁殖場所とする生物なので、檜枝岐村はきれいな自然環境であることを表しています。

さてこの燻製をどのようにして食べるのか、色々調べてみました。それによると、なまもの場合は塩焼きや天ぷらがポピュラーな様です。今回は燻製になっていることも有り、まずは、素材の味を確かめるべく、軽くあぶって食べてみました。焼き枯らしているの、燻製の味しませんが、次に燻製であることを生かした食べ方として、



「サンショウウオを食べてみた。」

南会津農林事務所
 森林林業部 主査 山河 周

チーズと合わせてみました。残りの一匹を耐熱皿に乗せチーズを上置き、レンジで一分。とろけたチーズに燻製の香りが合い個人的な見解ですが酒の肴としてはベストでした。効用ですが、ご自身で購入し確かめてください。

檜枝岐村には「山人料理」といって地元野菜、きのこ、川魚、蕎麦などを使ったおもてなし料理もありますので、興味ある方はお越しのうえに賞味ください。



表紙の写真



「冬に備えて」

第13回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選を受賞した千原武和さん（郡山市）の作品。撮影場所：南会津町水引集落

はなしのひろば

心地よさ

年の暮れの気ぜわしさは、波がひくように遠のき、昨日の今日といえ新しい年の始まりである。「何となく今年はいい事ある」とし元日の朝暗れて風なし」（石川啄木）の心境である。「何となく…」という何にも縛られないその予感の曖昧さがいい。私自身、歳を重ねていくにつれ「曖昧な妙」に魅かれていく。

「曖昧な妙」といえば縁側がある。縁側は、板張りの通路でもあり、玄関とは異なる内と外とを結ぶ穏やかな境界ともいえる。その明確な目的のないその曖昧なつくりを無駄な空間と言う人もいるが、その空間は、まさに「何となく」の境地につれていつてくれる。何となく縁側から庭を見る、空を見上げる。何気なく行き交う車の音や鳥の鳴き声が聞こえてくる。まさにそこは、ふつと息が抜ける質のいい空間なのだ。座つてよし、あぐらをかいてよし、寝そべつてよし、である。

ところで、年が明けて、何となく目にしたもの、何となく肌で感じたもの、何気なく耳にしたものの中に、新しい年を感じたものはあつただろうか。今年も一年が始まり、春夏秋冬に二四の節気、七二もの候という季節が巡ってくる。季節が巡るといことは、いつもの日々ふとした瞬間に、新しい季節の訪れに気づくことかも知れない。

一月は、寒の入りを迎え、寒さが極まるが、大寒（一月二〇日）を過ぎると日が少しづつ長くなり、春へ向かう候となる。ロウバイやウメの芽にも春意を感じるようになる。それぞれが感じる「季節の何となく」その心地よさを大事にしたい一年である。（都）



編集	福島県内四森林管理署
発行	福島県森林・林業・緑化協会
発行	福島県森林組合連合会
発行	福島県木材協同組合連合会
発行	福島県農林種苗農業協同組合
発行	ふくしま緑の森づくり公社
発行	森林総合研究所福島水産林整備事務所
発行	福島県森林・林業・緑化協会
発行	（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行	相馬
発行	陽光社印刷株式会社
発行	（定価 一〇八円）

お知らせコーナー

平成28年度治山・林道コンクール 受賞者の紹介

施工技術の向上や治山・林道事業の発展等を目的に実施されている治山・林道コンクールの表彰式が平成28年12月1日東京都内で行われ、本県からは次の方々表彰されました。

- 第32回民有林治山工事コンクール
一般社団法人日本治山治水協会長賞
（株）本多組 本多 幸一
- 第17回民有林治山木材使用工事コンクール
一般社団法人日本治山治水協会長賞
県南農林事務所森林林業部 河和 功
- 第39回林道維持管理コンクール
日本林道協会長賞 西郷村長 佐藤 正博
- 第32回林道工事コンクール
日本林道協会長賞 （株）環境建設 関本 榮次
- 第17回民有林林道木材使用工事コンクール
日本林道協会長賞
県北農林事務所森林林業部（当時） 油井 竜太

海岸防災林再生シンポジウム 参加者募集

海岸防災林の効果や役割、再生の意義、重要性等について理解を深めるとともに、多くの皆様が海岸防災林再生へ参画いただけるよう、シンポジウムを開催します。

日時 平成29年1月31日（火） 13:00～15:00
会場 福島市「A・O・Z（アオウゼ）多目的ホール」

シンポジウムの概要

講演 演題 海岸林再生活動を地域のシンボルとして継続するために

講師 農学博士 萩野 裕章 氏

パネルディスカッション

募集人数 100名

申込締切 平成29年1月26日（木）

申込方法 必要事項を記載し、事務局へFAX、ハガキ又はメールで提出

事務局 （公社）福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局
TEL 024-524-1480 FAX 024-521-3246
E-mail: info@fukushima-green.jp

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



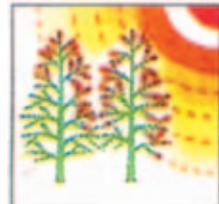
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



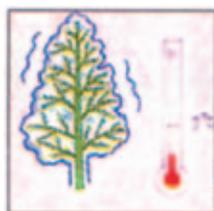
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

<p>野生獣類から大切な植栽木を守る</p> <p>ヤシマレント</p> <hr/> <p>ヤマビル対策に</p> <p>マリックスター(駆除剤)</p>	<p>蜂さされ防止</p> <p>ハチノックL(巣退治) ハチノックS(携帯用)</p> <hr/> <p>タケを駆除する</p> <p>クロレートS</p>	<p>大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤</p> <p>ヤシマスミバイン乳剤 ヤシマスミバインMC グリーンガードNEO パークサイドF ヤシマNCS モリエートマイクロカプセル マツグリーン液剤2 マッケンジー</p>	<p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>与作シート(茶・白) (折りたたみ式 専用キャリーバック使用)</p> <hr/> <p>竹・ササの防除に</p> <p>クロレートS粒剤</p> <hr/> <p>アメシロなどの害虫防除殺虫剤</p> <p>打ち込み上手</p>
---	---	---	--



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

<p>チッパシュレッダ</p>  <p>竹もOK! SR3100 出力 18.4kW (質量1,330kg) 水冷ディーゼル 967634301 ¥3,580,000(税抜)</p>	<p>ハンマナイフモア</p>  <p>ZHM1550 出力 27.5kW (質量1600kg) 967081901 ¥5,860,000(税抜)</p>	 <p>ZHM800 出力 7.4kW (質量230kg) 967088901 ¥748,000(税抜)</p>
--	--	--

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1